

事業の背景・目的

- ・奈良県においてサクラは、**生物多様性の重要な構成要素**であるとともに、万葉集の歌に詠まれ、寺院の古木がサクラの名所として継承されるなど、**奈良の歴史や文化を育み、観光資源としても重要な花木**となっている。
- ・奈良県では、令和元年度に初めてクビアカツヤカミキリの被害が確認されたことから、令和2年度生物多様性保全推進支援事業を活用し、被害の早期発見と被害拡大を抑止することを目的とする「**奈良県クビアカツヤカミキリ早期防除推進計画**」をとりまとめた。
- ・特に奈良県吉野町の吉野山には主にヤマザクラが約3万本生育しており、毎年春には多くの観光客が訪れる国内有数のサクラの名所となっているが、比較的近い場所でクビアカツヤカミキリが確認されており、**早急な予防対策が必要**である。



事業の内容

事業①GISを活用した監視体制強化及び早期防除技術の指導

→サクラ被害の早期発見、早期駆除に向けた体制整備

- GISの構築
 - ・被害木のプロットおよび 詳細情報の登録
 - ・サクラ生育地等の地理情報の収集・登録
- 調査および監視技術の指導のため樹木医を派遣
- 早期防除技術指導・実習のため樹木医を派遣

事業②吉野山における予防対策の検証

→重要地域(吉野山のヤマザクラ等)保存に向けた実証試験

- 令和2年度に県有地において実施した予防対策効果まとめ
- 上記を元に吉野山における予防対策や検証手法を検討、決定

事業③普及啓発の強化による県民運動への展開

→監視の目を県全体に広げ、早期駆除につながるための啓発事業

- 防除講習会等の開催
- 普及啓発用資材作成
- 「さくら見守り隊」発足準備

得られた成果

① GISを活用した監視体制の強化・早期防除の技術的指導

- ・地理情報システムを構築。被害地のプロットおよび詳細情報を登録するとともに、サクラ生息地等の地理情報を収集・登録した。
- ・重要監視地点2カ所でクビアカツヤカミキリの被害を確認。早期防除につなげることができた。

② ヤマザクラ群生地(吉野山)における予防対策の検証

- ・前年度に対策を実施した箇所において樹木医の指導の下に効果を検証。施工箇所にひび割れ・はがれ等が生じるなど頻回なメンテナンスが必要であることが判明。見た目も悪く、吉野山のような観光地には不適であると結論づけられた。

③ 普及啓発の強化による県民運動への展開

- ・外来生物パネル展内にクビアカツヤカミキリ普及啓発ブースを設け、生体展示・標本展示やクイズラリーなどを実施。幅広い年齢層96名に普及啓発を実施できた。
- ・県民を対象とした防除講習会を開催し、55名の県民等に防除技術の普及を実施できた。
- ・普及啓発用資材としてA3ポスターを作成し、県内の市町村および公立小中学校へ配布した。